12　松岡映丘　大三島

昭和七年（一九三二）　紙本着色
本紙一三五・〇×一八〇・〇　一面

昭和六年十二月の高松宮邸の竣工にあたり、謁見の間に掲げるための壁画が昭和天皇、香淳皇后より御贈進されることとなった。その壁画の制作を命じられたのが松岡映丘（一八八一～一九三八）である。日本の風景を描くようにという御下命を受け松岡が描いたのは、瀬戸内海に浮かぶ大三島であった。この大三島にある大山祇神社が海神大山積神を祀り、古くから水軍の鎮守として知られることから、海軍大尉であらせられた高松宮宣仁親王にふさわしい画題として選んだという。松岡は実際に現地に足を運び、大山祇神社を参拝してその景色を写生している。画面中央で数隻の船が停泊しているところは、大山祇神社に参拝する船が昔から利用した宮の浦という入江であり、帆を畳んだ船や燈台の描写には現地写生の成果が認められる。

画面には丸みを帯びた島々とそれを取り巻く海と空が、緑と青を基調として描かれる。この濃彩の鮮やかな色調は、土佐派や住吉派といった大和絵の古画の彩色を意識したもので、大和絵の表現を近代的感覚でとらえ直した松岡の大きな特徴の一つと言える。そして緑の木々の間にはところどころに桜の花の白が混じり、春ののどかな海景色が表現されている。

本図が飾られた旧宮邸は、戦後の昭和二十一年より光輪閣の名で貿易庁迎賓館として使用され、その後は各国国賓や皇族の方々に晩餐会や結婚式の会場として使用された。昭和四十六年には老朽化のため一度取り壊されるが、本図は同四十八年にその跡地に新築された現宮邸へと移されその大食堂の壁面を飾った。そして平成十七年に旧高松宮家からの御遺贈品の一つとして当館の収蔵品に加わることとなった。今回の公開は、昭和十五年に東京府美術館（現・東京都美術館）で開催された「松岡映丘遺作展」に出品されて以来、初めての機会となる。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸
三の丸尚蔵館展覧会図録No.50

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections